

けんしていゆうけいぶんかざい こうこしりょう  
【県指定有形文化財（考古資料）】

はらだこふんぐん ごうちかしくよこあなほしゅつどひん  
原田古墳群 3号地下式横穴墓出土品

れいわねんがつにちしてい  
(令和5年5月2日指定)



ごうげんしつない  
3号玄室内



短甲(よろい)

U字形鋤鋤先  
(農具の刃先)

ヤリ

刀子(小刀)

有肩鉄斧  
(おの)

鉄鏃(矢じり)

鑷子状鉄製品  
(毛抜き?)

鉄剣

鉄鏃(矢じり)

鉄鏃(矢じり)

しゅつどひん いちぶ  
出土品(一部)

しゃしんていきょう しぶししききょういくいんかい  
(写真提供: 志布志市教育委員会)

○ 所在地 志布志市志布志町安楽41番地6 (志布志市埋蔵文化財センター)

○ 所有者 志布志市

○ 特徴

原田古墳群は、現在は円墳1基と地下式横穴墓3基で構成されています。3号地下式横穴墓からは、短甲(よろいの一種)1点、鉄剣1点、鉄鏃32点、刀子1点などあわせて40点あまりが出土しました。

古墳時代中期の短甲は、中央政権のもとで制作され各地域の支配者との同盟関係の証として配布されたと考えられるものです。加工した軽石を並べた囲いの中に納めるように置かれていたことから、被葬者の地位を象徴するものとして丁寧に扱われていたことがわかります。

肝属平野の地域間の交流関係や中央政権とのつながりを考える上で重要です。